

障害者支援（自閉症者療育）施設 はぎの郷

令和 7 年度事業報告

1. 利用者の推移

(1)入・退所者推移

	H30.4.1	R1.4.1	R2.4.1	R3.4.1	R4.4.1	R5.4.1	R6.4.1	R7.4.1	R8.4.1
男	29	28	28	28	28	28	28	28	26
女	15	15	15	15	15	15	15	15	15
対前年度増減	0	－1	0	0	0	0	0	0	－2
合計	44	43	43	43	43	43	43	43	41

※R7.8.31 入院先で死去(1名)

※R7.12.28 施設内で死去(1名)

(2)性別・年齢別表(R8.3.31 現在)

	31	38	41	43	48	49	50	51	52	53	54	55	56	58	62	合計	平均
男	1	1	1	1	0	2	3	2	2	3	5	2	1	1	1	26	50.8
女	0	1	0	0	1	0	3	0	4	2	0	4	0	0	0	15	51.3
計	1	2	1	1	1	2	6	2	6	5	5	6	1	1	1	41	51.0

(3)市町村別利用状況(R8.3.31 現在)

	金沢市	野々市市	内灘町	津幡町	七尾市	白山市	小松市	かほく市	合計
男	22	1	0	0	1	0	0	2	26
女	5	1	1	2	3	2	1	0	15
計	27	2	1	2	4	2	1	2	41

(4) 障害支援区分表

	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
男	0	0	0	0	19	7
女	0	0	0	1	5	9
計	0	0	0	1	24	16

※支援区分パーセンテージ：区分 4(5%) 区分 5(57%) 区分 6(38%)

※重度加算対象：40名

2. 職員構成

(R8.3.31 現在)

	現員数			現員数	
施設長	1	常勤	看護師	2	常勤
サービス管理	1	常勤	事務長	1	常勤
課長	1	常勤	事務員	1	常勤
課長補佐	1	常勤	管理栄養士	1	常勤
生活支援員	21	常勤 17			
		非常勤 4	合計	30	

3. 実施した主な行事

月	行 事	主 催	場 所
4 月	新幹線で福井に行こう	はぎの郷 B 棟	福井
6 月	おやじの会	保護者会	施設外周辺
	はぎの郷おめでとう会	つくしの会合同	トロル体育館
	あじさい祭り（太閤山ランド）	はぎの郷 A 棟	富山
	ぎやらりん（作品展）	つくしの会合同	金沢市民芸術村
7 月	ティーパーティー(ぶどうの森)	はぎの郷 C 棟	金沢
8 月	盆踊り花火大会	はぎの郷合同	駐車場
9 月	秋まつり	はぎの郷合同	駐車場
	お彼岸おはぎづくり	はぎの郷合同	各生活棟
10 月	ハイキング(キゴ山)	はぎの郷 A 棟	金沢
11 月	能登バスの旅	はぎの郷 B 棟	七尾
	能登島水族館	はぎの郷 A 棟	能登島
	ランチに行こう(四季彩館)	はぎの郷 C 棟	富山
	劇団四季チャリティー公演	ゆうらいふ 21	シグナス
	ゆめ水族園上映会	EPSON	トロル体育館
1 月	新年会	つくしの会合同	トロル体育館
2 月	節分	はぎの郷合同	各生活棟
3 月	黄色いレシート&ランチ	はぎの郷 B 棟	イオンモールかほく
	ティーパーティー(ぶどうの森)	はぎの郷 C 棟	金沢
	お彼岸ぼたもちづくり	はぎの郷合同	各生活棟

4. 職員研修及び委員会活動

(1) 職員研修

日付	分類	内 容
R7. 6. 10	研修	DWATフォローアップ研修
7. 13-14	研修	北陸地区知的障害者福祉協会 施設長会議
7. 9/17	研修	強度行動障害支援者養成研修：基礎
9. 9-10	研修	強度行動障害支援者養成研修：実践
9. 22	見学	全自者協北信越ブロック「仲間と語ろう！すだちの家」
10. 14	研修	「風通しのいい職場作りに大切な視点」（津幡町医療・福祉・権利擁護のネットワーク連絡会まるっと津幡）
10. 27	研修	感染症対策研修会（石川中央保健所健康推進課）
10. 30	研修	チームで考える強度行動障害の対応
10. 31	研修	地域で学ぶ人権講座「子どもの人権を考える」（地区社協くらし安心づくり萩野台）
11. 8-9	研修	評価キット体験ワークショップ（自閉症 e サービス）
11. 13	講演	「障害のある人の親として生きる～親の声を聴く、老障介護のゆくえ～」（金沢市障害者権利擁護研修会）
11. 14	研修	リスクマネジメント研修（石川県福祉協議会）
11. 21		北陸地区知的障害者施設協会 障害者支援施設部会 施

		設長会議（福井）
12. 8-9	研修	第 38 回全日本自閉症支援者協会 福井大会
12. 13	研修	石川県障害者虐待防止・権利擁護研修
2. 16/2. 19	研修	DWAT フォローアップ研修
R8, 1. 17	講演	子どもたちとゲーム・ネット・スマホ～「嗜癖かな」と思ったら～（石川県こころの健康センター）
2. 14	講演	「障害のある方のお金の支援を考える」～お金の上手なつかい方、まもり方～（石川県手をつなぐ育成会）
2. 21	研修	北摂杉の子会セミナー2025 地域に生きる～発達障害のライフステージに合わせた余暇支援を考える～

(2) 虐待防止委員会

利用者への虐待防止や、権利擁護実践について、月に一度虐待防止委員会を開き、現状を確認し、計画的な研修実施や、派遣を行った。

年度末会議での全職員参加の研修の他、新任研修においても虐待防止・ハラスメント防止・身体拘束の適正化についての研修を行った。

(3) 感染症対策委員会

仲間や職員の感染症罹患や、社会の感染症状況をモニタリングし、感染症対策委員会を随時開催し、医師の指示に基づいた適切な感染防止対策の徹底を図った。また必要な研修等にて知見を深め、全職員に発信した。

①施設内の感染状況

R7.8 A 棟マイコプラズマ風邪クラスター 要注意体制をとり、他棟への感染拡大は無かった。

R7.10 職員 1 名がコロナ陽性になり、要注意体制。10 月の帰省を取りやめる。要注意にて健康観察を行ったが施設への感染持ち込みは無かった。

R8.3 女性棟インフルエンザクラスター発生。要注意体制をとり、他棟への感染拡大は無かった。

②帰省・面会等は御家族のご意向に応じ自由に行った。「施設に感染を持ち込まない」という対策を中心に、感染症対策委員会からの発信にて感染予防に向けた取り組みを徹底した。また、新任職員を中心に、感染防止標準プロトコルの訓練や、防護具の着脱訓練も実施した。

※3/11 つくしの会地域連携推進会議を開催（施設通信・ホームページにて報告）

5. 受諾研修・ボランティア・見学・地域連携推進会議等

(1) 受諾研修及び実習

施設実習	R7.8.18～29	金城大学短期大学部幼児保育科 2 年生	1 名
施設実習	9.1～12	金城大学人間社会科学部子ども教育保育学科 2 年生	1 名
施設実習	9.15～26	金城大学短期大学部幼児保育科 2 年生	1 名
施設実習	11.10～21	石川県立保育専門学園 1 年生	1 名

(2) ボランティア ※来郷時は検温・消毒を徹底

来郷者	内容	備考
知楽市スタッフ	PC クラブ・インターネットカフェ	主に第 1・3 水曜日

(3) 見学

随時、見学希望・相談等に対しては、オンライン等も利用して受け入れてきた。

(4) 地域連携推進会議の開催

事業の内容やご利用者様に関する理解の促進を図り、地域の一員として、福祉の発展に貢献できるよう、はぎの郷、およびホームすぎなに対し義務化された地域連携推進会議を令和8年3月11日開催した。開催にあたり関係各機関に参画を打診したところ、どなたも二つ返事で引き受けて下さり、施設を見守って下さる地域の皆様の温かさを感じた

出席者	萩野台公民館長、地区社協くらし安心づくり萩野台会長、津幡町立萩野台小学校校長、津幡町福祉課副主幹、津幡町地域包括支援センター保健師、つくしの会保護者会会長、はぎの郷ご利用者様代表
主なご意見	●「理解し合い信頼し合ってこそ『なかま』という「つくしの会」の考え方は、障害のあるなしにかかわらず、多様性を認める地域づくりには必要なことと感じる。利用者さんと職員さんとの関係が、とても密接で、良好だということが、一目見て感じ取れた。仲間の皆さんの個性、というか「やりたいこと」とか「とくいなこと」が見て分かるなと思った。 ●施設内がとても清潔であった。 ●実際に施設に伺って、皆さんの生活のご様子を拝見させていただいたのは、大変貴重な体験になった。来年度以降も連携推進会議は続いていくと思うので、津幡町職員も順番に参加させていただいて、自閉症や障害のある方への支援の啓発を行っていきたいと思った。 ●「地域防災の拠点となる」という事業方針には感謝します。 ●はぎの郷まつりで地域の皆さんがフリーで訪問できることは大変良かったので、コロナ以降中断されているがぜひ再開して欲しい。また、萩野台新聞や、かわら版での情報発信、公民館行事にご協力いただく等の機会をどんどん活用してもらえれば、さらに親しみの持てる施設になると思います。 ●権利擁護に親御さんも交えて取り組んでいるということに関して、津幡町地域包括センターでも様々なネットワークと共に取り組んでいるので、連携していければ、と思った。 ●津幡町として、高齢者の方々等の移動手段が無いということが課題となっているので、社会福祉法人の地域貢献として、バス運行の提供などはいかがかなと、先程バスで仲間の皆さんが出掛けられる姿を見て思った。 ●一昨年のくらし安心づくり萩野台の人権講座ではぎの郷の「なかま」という概念を伺っていたが、今日実際に見せてもらって、お一人お一人をひとりの人間として大切にされており、あらためて素晴らしいな、と感銘を受けた。そして、この感覚を社会の多くの人たちが持つ、ということがとても大事なと思うので、先ほど説明のあったように「これからの使命」として「自閉症の方々への支援人材の確保・育成」とされていることはとても大切なことと思いましたが、小学校としても「人権意識」ですとか「一人ひとりを大切に」という取り組みを行っているので、また何らかの形で交流できればと思っている。

6. 支援全般について

(1) ご利用者の現況と令和7年度のトピックス

男女共に50歳を超える方が多数となり、今まで施設として経験した事の無いご病気を患う方や、思わぬ転倒による怪我が増えてきた。そうした高齢自閉症者に対する支援への知識や技術、具体的な取り組みが、今後更に求められる。

令和7年度はアート芸術活動として、市民芸術村アート工房にて「はぎの郷・ジョブスタジオ ノーム作品展」を開催した。8月に亡くなったご利用者の20年に亘るカレンダー原画展を主に、仲間の芸術作品と社会・企業とのつながりを展示に盛り込み、ご支援いただいている団体の取組みを紹介し、作品展を通し自閉症・発達障害への理解を広めることを目的として行いました。6月27日から29日までの3日間と短期間ではあったが来場者430人、スタッフ合わせると500人近く方が来場された。

（2）生活支援員の体制

はぎの郷は、サービス管理責任者・生活支援員・看護師・管理栄養士等が常に連携を取り、24時間365日を通して、夜間は夜勤職員3人体制で、日中は日勤の他に早出2人、遅番3人のローテーション勤務を行っている。そのため、職員は情報共有のため、クラウド型のグループウェアにて連携を取っている。

また、障害福祉分野のICT導入モデル事業補助を受けクラウド型の記録システムを導入しており、記録を即時・共有・活用・検証することで記録を利用者一人ひとりの支援に生かし、記録業務にかかる無駄を省き、支援の生産性の向上を目指している。

（3）栄養管理

- ①管理栄養士を配置し、仲間の栄養管理、摂食支援、委託業者への指示・指導を行っている。
- ②6ヵ月に一度のモニタリング会議に参加し、栄養ケアマネジメントを行った。
- ③利用者の健康状態・ADL状態・障害特性により特別食が増えてきた。
 - ・栄養量　・調理法　・食事の形態（きざみ食、別盛り食）　・介助皿の使用

（4）医務・健康管理

- ①健康診断、健康管理と疾病予防
 - ◆ 健康診断（年2回／10月・3月実施）
 - ・尿検査　・血液検査　・結核検査（間接撮影）
 - ・身体測定・体重・身長・腹囲）　・血圧、脈伯測定
 - ◆ 歯科検診（年1回）
 - ◆ 定期的な歯科通院
 - ◆ インフルエンザワクチン接種（11/7）
 - ◆ R6年度末より、胃カメラ検査⇒必要な方にピロリ菌除去

②【医療連携病院】

医療法人社団浅ノ川 桜ヶ丘病院

- ③発生したヒヤリハット事例を受け、10月～11月に職員を小グループに分け、気道確保のための異物除去訓練を実施した。

7. 防災・感染症対策

今年度も引き続き、BCPによる備えの確認と訓練を行った。
いずれも今後、必要に応じて研修や訓練と見直しを行っていく。

（1）自然災害発生時におけるBCP

毎月の防災訓練

利用者の避難行動をルーチン化し落ち着いて避難できるようになることを目的に、毎月様々な想定のもと、利用者・職員により消防署への通報訓練も含んだ防災訓練を行った。

日	想定時間	想定状況	備考
4月25日	日中想定	火災想定	
5月28日	夜間想定	夜間想定	
7月1日	日中想定	火災想定	消防署への通報有り
8月4日	日中想定	火災想定	
9月8日	夜間想定	夜間想定	消防署への通報有り
9月26日	日中想定	火災想定(トルル)	消防署への通報有り
10月29日	日中想定	火災想定(トルル)	消防署への通報有り
11月28日	日中想定	火災想定	
12月4日	BCP 想定	大地震による停電・断水	災害時 BCP 訓練
12月24日	日中想定	火災想定	消防署への通報有り
1月26日	日中想定	火災想定	消防署への通報有り
2月26日	日中想定	火災想定	
3月18日	日中想定	火災想定	

- ・非常設備・防災備品の点検、防災食のローリングストック等は毎月実施してきた。
- ・非常通報装置の配線工事を行い、B棟も含めた全館で、放送が流れるようになった。
- ・自然災害（地震および豪雨水害）を想定した訓練も計画し、実施している。

（２）感染症対策における BCP に基いた日常業務

- ①防護具の数量管理と標準的な使用訓練の実施
- ②二酸化炭素濃度計測器を各棟に設置し、こまめな換気を徹底した。
- ③有効なテーマの外部研修への職員の派遣
- ④隔離棟となるスーパーハウスの維持管理

8. 各部門別 活動報告

（１）QOL 向上担当部門

基本方針

ご家族と連携し、季節を感じながら、健康で心豊かな生活を提供する

目標：安全・安心を保てるよう生活環境を見直し、
一人ひとりの生活の基本部分に目を向けてQOLの向上をめざす

①日々の生活習慣の徹底

- ・手洗い消毒を徹底し、特に食事前・トイレ後・外出から戻った時に手洗いが抜けないようにした。
- ・職員のワンケアワン手洗いを徹底し、手指消毒液も常に携帯する。
- ・見通しを持って生活できるように予定表の作成と日課の掲示。
- ・館内の備品の管理は、すぐにわかるよう整理・在庫把握し、5Sを徹底した。

②健康管理

- ・毎日の健康把握（1日2回の検温）
- ・健康状態の把握（月1回のほけんの日：体重・腹囲・血圧、脈拍、体温などを測定、記録する）
 - ・歯磨きは、利用者が自分の歯を磨く技術向上はもちろんであるが、職員が行う仕上げ磨きの技術の向上にも力を入れて行っている。
 - ・利用者の高齢化に伴う、介護の知識や技術の習得。

③余暇支援

- ・感染症対策で各棟ごとに分かれての余暇イベントを実施した。
- ・季節が感じられる小行事と土日を中心とした余暇活動の提供。
- ・入浴後の喫茶や夜のおやつ提供とお菓子作り。

- ・各棟ごとに誕生会を設け、お祝いをしている。
- ・各生活棟での季節に合わせた室内装飾活動。

(2) 日中活動支援部門 ■療育活動■

基本方針

健やかな心身を維持し、四季を感じながら豊かな生活を送れるようにする

- ・ウォーキング活動(宇ノ気公園、倶利伽羅方面など)、リトミック活動(各棟や屋外、トロル)、健康器具を使用した活動、外部講師によるヨガ教室、美術教室などを行っている。
- ※アートレンタルいしかわ作品展、いしかわ障害者アート展へ、利用者の作品を出展している。
- ・石川県リハビリテーションセンターとの協働による利用者の身体の機能維持のためのサポート
体力測定(身体機能評価)を各棟別に実施。日中活動の評価と改善へ向けた連携会議。

(3) 日中活動支援部門 ■作業活動■

基本方針

- ・「自分の仕事」という自覚と責任感を持って自主的に取り組める活動があること
- ・活動を通して、その文化に触れたり、人との交流が生まれていること
- ・活動により、報酬や他からの感謝、自身の健康など恩恵を受けていること

各棟活動中心で日中活動を行っている。

A棟：ボビン・アルミ缶、B棟：自分作業、畑・環境整備 C棟：織物・園芸・環境整備を中心に行なっている。各棟ごとの作業種目・内容を確認し、仲間が作業に集中できる環境調整を行っている。

9. 環境の整備・修繕等(主な工事)

- ・7/14 水漏れ調査と止水便取付
- ・8/13 男性棟、管理棟トイレピット点検口交換工事
- ・9/11 女性棟トイレピット点検口交換工事
- ・9/11 厨房スチームコンベクションオーブン修理
- ・10/14 電話装置不備の修理
- ・10/14 厨房エアコンの修理
- ・3/4 トロル フェンス修繕工事
- ・3/4 アロエース冷温水管漏水修繕工事

10. 啓発活動

- ・4/2 世界自閉症啓発デーにおける Light It Up Blue Kanazawa 実行委員会イベントへの協力
- ・10/5 福祉のつどい金沢にて Light It Up Blue Kanazawa のブース展示
- ・3/26～4/9 県立図書館県立図書館にて自閉症啓発デーの展示

令和7年度「ホームすぎな」事業報告

1. 利用者の状況 (R8.3.31 現在)

(1) 利用者の性別、年齢、市町村別状況

- ・現利用者は6名（定員7名）、全員男性、平均年齢：53.8歳
- ・出身市町：金沢市(4)、かほく市(1)、白山市(1)
- ・現住所：金沢(3)、津幡(3)

(2) 障害支援区分

- ・これまで、区分4(3名) 区分5(3名)であったが、令和7年度中の再判定により、6名全員区分5となった。

(3) 日中活動

- ・6名全員、平日の日中はジョブスタジオノームに出勤して生産活動や受託作業等の作業に従事されている。ノーム・すぎなの生活支援員が連携して、GHでの生活・余暇支援にあたっている。

2. 職員配置 (R7.4.1 時点)

- ・管理者(1)・・・常勤（兼務）
- ・サービス管理責任者(1)・・・常勤（兼務）
- ・生活支援員(3)・・・非常勤専任2、常勤兼務1（常勤換算2.14人）
- ・世話人(3)・・・非常勤3名（専任2、兼務1）（常勤換算1.28人）

※他、はぎの郷職員によるバックアップ体制

3. 年間延べ利用人数

R7年度	R6年度	R5年度	R4年度	R3年度	R2年度
2,067	2,065	2,012	2,096	2,082	2,107

※開所日数365日：はぎの郷と同日程で、月1回の週末帰省を実施した。

4. 支援内容

- ・ご利用者会議により皆さんのご意向を反映し、余暇活動や生活用品の買い物や外出に反映させた。ノームの生活支援員とも連携し、衣類の購入や飲食についてもその人らしい外出や社会参加の体験が繰り返されるよう心掛けた。また親御さんへのお見舞いやお墓参りに出かけたりすることも支援した。
- ・クラウド型グループウェアにて、すぎな利用者の状況や支援内容についてはぎの郷・ノーム職員とも共有できるようになった。
- ・消防への通報を含む防災訓練は年2回実施した。ヘルメットや非常時持出袋は各部屋に設置し、持ち出して避難する訓練も行った。

- ・「令和 7 年度障害福祉分野の介護テクノロジー導入支援事業費補助金」を受け、各居室にミリ波レーダーによる生体検知システムを導入した。これにより、遠隔地においても「就床・離床・起き上り」や「体温、呼吸数、心拍数」がモニター出来、異常値があった場合アラートが発信されることで、夜間の安全性が格段に向上した。今後は運用の方法を更に検討し、見守り体制を向上させるとともに、将来の高齢化に対応した利活用のノウハウを蓄積してゆきたい。

5. 課題

- (1) 朝食や休日の食事の提供体制が整わず、パン食が増えてきており、世話人・生活支援員の余裕を持った配置が必要と考える。
- (2) 防災用品や備蓄品等の為、適した場所に防災倉庫の設置が必要。
- (3) 個々の医療支援体制の整備が今後重要となってくる。

以上

1. ご利用者の状況

(1)ご利用契約者数の推移

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
男	19	19	19	20	20	19	19	19	19	19	19	19
女	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	21	21	21	22	22	21	21	21	21	21	21	21

※月1回ご利用の方、週1回ご利用の方、2名新たに契約

※8月31日 利用者1名 ご逝去

(2)性別・年齢別 人数表(R7.3.31 現在)

年齢	10台	20～ 24	25～ 29	30～ 34	35～ 39	40～ 44	45～ 49	50～ 54	55～ 59	60～	平均年齢
男	0	1	3	4	0	2	1	5	2	1	42.4
女	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	30.5
計	0	1	4	5	0	2	1	5	2	1	41.2

(3)市町村別ご利用状況(R7.3.31 現在)

市町村	金沢市	白山市	内灘町	津幡町	羽咋市	かほく市	小矢部市	能美市	計
男	9	1	1	2	1	3	1	1	19
女	0	0	1	0	0	1	0	0	2
計	9	1	2	2	1	4	1	1	21

(4)利用者の障害支援区分(R7.3.31 現在)

	利用者数	障害支援区分判定						未判定
		1	2	3	4	5	6	
男	19				2	10	4	3
女	2			1		1		0
計	21			1	2	11	4	3

(5)延べ利用者数と開所日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
延べ利用者数	444	417	407	437	397	400	423	387	392	377	375	365
開所日数	24	22	23	24	23	22	24	22	22	21	21	21

※年間を通した平均利用者数は17.9名となった。

2. 職員構成と異動

R7.3.31 現在

管理者	1	常勤
サービス管理責任者	1	常勤
目標工賃達成指導員	1	常勤
職業指導員	1	常勤
生活支援員	7 (3.6)	常勤／非常勤

※令和7年度中の異動は無し

3. 実施した主な行事

(1) ノーム全般（施設行事・交流）

日	内 容	会場
4/2	自閉症啓発デー ブルーライトアップイベント	金沢市役所他
4/24	八重桜ウォーク（倶利伽羅峠まで往復 16km）	倶利伽羅公園
6/1	萩野台小学校奉仕草刈り	萩野台公民館
6/2	マジシャンルパンのマジックショー	はぎ・ノーム合同
6/7	（保護者会）おやじの会	はぎの郷・ノーム
6/8	津幡町美化大作戦 参加	萩野台公民館
6/9、6/23	陶芸教室	トルル
6/23、7/1 7/22～7/24	梅干し作り（保護者会活動に協力）	トルル
6/27～6/29	作品展『ぎやらりん』	市民芸術村
7/29	ノーム味噌完成 みそ開き	
8/9	萩坂地区合同盆踊り大会	萩野台公民館
7/16	夏のチャンピオンカレー大会キッチンカー	トルル前
9/19	偲ぶ会	トルル
10/31	たこ焼きパーティー	トルル
11/24	劇団四季ミュージカル鑑賞（日産労連主催）	シグナス
12/26	ノーム年末大反省会&レッスルダンス	勝崎館、レッスル
1/6	初詣	倶利伽羅不動寺
1/16	新年を謳って踊って祝おう	トルル
1/30	偲ぶ会	トルル
2/6	みそ作り	トルル
2/13	ノーム節分	トルル
3/12	アートレンタルいしかわ見学	しいのき迎賓館

(2) 就労支援関連

4/26	くりからマルシェ(新規)	倶利伽羅塾
5/18	つばたハートフルマルシェ 出店	アルプラザ津幡
6/27～29	日本小児保健協会学術集会イベントに出展	もてなしドーム
9/28	ふれあいフェスティバル 出店	産業展示館
10/5	福祉の集い金沢 出店	松ヶ枝福祉館
10/8、9	受託 草刈り作業	二口町
12/24	P F U / P r o D e S 様 クリスマス販売会	本社/ProDeS 売店
12/24	F J I T 労働組合とのクリスマス販売会 今年度も対面販売中止、製品の予約販売のみ	F J I T 労組
1/24	12th とっとりイーパーツ リユース P C 寄贈式	Zoom 参加
●津幡町役場、津幡町社協、ユニバーサル(株)のご協力にて季節の企画（母の日、父の日、ハロウィン、クリスマス、バレンタイン、ホワイトデー）においてチラシ回覧による注文販売を実施		

(3) 生活・健康・余暇支援関連

6/12	歯科検診	はぎの郷・ノーム
10/10	健康診断	はぎの郷
11/7	インフルエンザ予防接種	はぎの郷
3/13	健康診断（はぎ・すぎな）	本館 食堂

※労働の報酬を実感できるよう、ご家族のご協力を得て毎月の給料日を一部現金支給にし、貯金箱に積み立てを行い、「チャレンジデー」「振り返り会」等の行事の費用に充てている。（H23 年度より継続）

4. 防災訓練

・秋と春の火災予防週間に合わせ、火災想定や地震想定避難訓練を 2 回、実施した。同時に消防署へ

の通報訓練も合わせて行い、防災機器の確認も行った。管理業者による機器点検の際、指摘された期限切れの消火器の更新も行った。

5. 職員研修及び福利厚生

日 付	分類	内 容	備考
6/9、6/10	大会	北陸地区知障協施設長会議	福井
7/11、7/19、7/20	研修	強度行動障害支援者養成研修(基礎)	講師として
9/5、9/6	研修	強度行動障害支援者養成研修(実践)	講師として
10～12 月	厚生	職員健康診断	
11/7	厚生	職員インフルエンザ予防接種	
12/8、12/9	研修	全日本自閉症支援者協会福井大会	全国大会運営委員

6. 受諾研修・実習・ボランティア・見学等

(ア) 受諾研修及び実習 ※今年度該当なし

受入日(期間)	分類	所属	人数	延べ日数

(イ) ボランティア

来郷者	内容	備考
NPO 法人 ケーネット知楽市	インターネットカフェ PC 再生	主に第1・3水曜日 随時
石川工業高等専門学校	インターネットカフェ／PC 再生	随時

(ウ) 職員の委嘱業務・地域貢献等

津幡町共同募金会 審査委員	津幡町共同募金会
津幡町障害者地域自立支援協議会 委員	津幡町
強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）企画委員	石川県
障害のある方のアート活動支援研究会 企画委員	石川県
自閉症啓発デー 関連行事	石川県自閉症協会

(エ) 見学者ご来訪

月 日	見学者	備考	人数
	就職希望者・父兄見学会	ご希望日にその都度	

7. 整備・修繕工事等

- ・2026 年 1 月：作業室 入り口扉 戸車交換
- ・2026 年 2 月：ノームとトロルの境界に跨る材木川沿いのフェンスの支柱が錆びによる腐食し、凭れかかれば川側に転落する恐れが出てきたため、支柱の交換を行った。

8. 助成、寄贈

- ・なし

9. 今年度の取り組みのふり返りと工賃支給実績

(1) 支援全般について

●工賃向上や社会参加につながる各種イベントへの出店・販路の拡大

令和7年度も、洋菓子製造、企業委託業務等にて売り上げを伸ばすことが出来たが、原材料・光熱費等の高騰により、収益増には繋がらなかった。また創作活動も積極的に行い、日常の作業の活動の中で、敢えて時間を取ってアート作品の製作を行う時間も設けることが増えた。

●それぞれの働くスタイル

今年度も大きく分けて、1 日を通して作業労働に従事される方（5 時間）と、午前運動（2 時間）・

午後作業労働（3時間）という日課で過ごされる方との2グループに分けた運営を行ってきた。

【就労支援事業収入と工賃支給】

	R7年度	R6年度	R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R1年度
① 就労支援事業収入	5,772,692	5,212,544	5,275,061	4,926,319	4,779,709	4,976,145	5,405,745
② 工賃支払総額	3,149,269	2,833,651	3,102,049	2,697,474	2,580,071	2,478,634	3,032,377
③ 平均工賃月額	14,580	12,847	14,049	11,527	11,416	10,871	12,959

(2) 各作業種目別実績

作業種目	具体的作業名	作業の内容・特徴	年間売上げ額 (売上全体に対する割合)	作業における課題
飲食品	食品加工 (焼き菓子作り)	洋菓子(クッキー)の製造 販売会やショップ販売の実施 企画セットやギフトセットの販売 企業等への注文販売	2,991,204 円 (51.8) %	材料、器具、消耗品の価格高騰
日用雑貨・小物・ 木工(工芸)	ウェス加工 名刺・年賀状印刷 ポストカード メモ帳・木工 アート作品	・ノーム・はぎの郷利用者の絵 画を使用した自主製品作り ・昨年からの木工作业等、季節 製品等は本年も継続。	190,735 円 (3.3) %	アート作品による収入も増えた。
下請け・内職	カーテンフック 組み立て作業 菓子ラッピング作業	・誰でも参加できる軽作業とし て、位置付けている。 ・常に材料の供給があるため安 定して同一の作業活動を提供で きる	1,396,437 円 (24.2) %	フック: 分かりやすい作業のため、ノームの活動の中心となっている。 ラッピング: 作業量が増えているが職員による検品作業も増えている
その他	PC再生	・利用者の社会参加・社会貢献 の機会を広げる作業として位置 付け ・多くのNPOやボランティアとの 協働作業で実施している	763,116 円 (13.2) %	企業からの不用PCの提供が減少しており、再生台数も減少している
清掃業	清掃業務 ・環境整備	・業務訓練の一環として、同法人施 設の清掃を部分的に実施してい る。 ・マニュアルに沿った業務を遂行で きるよう支援している。	431,200 円 (7.5) %	作業マニュアルが形骸化し、作業者の自己流になりかけている

10. 自閉症啓発への取り組み

◎世界自閉症啓発デー Light It Up Blue2025：石川門ブルーライトアップへの協力

◎強度行動障害支援者養成研修（基礎研修・実践研修）

県の研修の企画委員として参加し、県下全ての障害福祉事業所職員を対象に、強度行動障害に至る可能性のある自閉症児者への支援についての研修を実施し、自閉症者への支援に対する理解の浸透と、障害者虐待防止・権利擁護に繋がることを目指している。（継続中）

以上

発達障害者支援センターパース 令和7年度事業報告

1. センターの状況

(1)職員配置

6名（内 、常勤5名、非常勤1名）

(2)実施場所

金沢市福久東1-56 オフィスオーセド2階建ての2階の2室を使用

(3)委託料

自閉症支援センター（パース）委託事業は前年度と同額

発達障害児家族の集い委託事業について前年度より減額（398,200円（税込）の減額）となった。

2. センター事業の実施状況（表1） 2. センター事業の実施状況（表1）

			R7 年度	前年度
1. 相談支援・発達支援	来所、訪問、電話、Eメール 原則、日曜・年末年始を除く 9:00～17:30 Eメールは 24 時間受付、緊急時は携帯電話等で時間外にも対応	実 支 援 人 数	502 人	480 人
		延 支 援 件 数	2215 件	1694 件
	心理学的判定	実 判 定 人 数	7 人	12 人
	情報共有等（調整会議）		66 件	79 件
2. 相談支援・就労支援	来所、訪問、電話、Eメール 原則、日曜・年末年始を除く 9:00～17:30 Eメールは 24 時間受付	実 支 援 人 数	227 人	215 人
		延 支 援 件 数	2256 件	1962 件
	情報共有等（調整会議）		45 件	66 件
3. 機関コンサルテーション	(1) 機関数		97 件	—
	(2) 延件数		282 件	—
(3) 地域住民等に対する普及啓発	・世界自閉症啓発デーについての広報活動 ・ペアレントメンターについての周知・理解 ・NPO 法人への発達障害者支援に関する助言、説明会 ・ピアサポーターへの説明会	実施回数 パンフレット作成	26 回 17 回 (100 枚)	33 回
(4) 関係施設・関係機関等に対する普及啓発及び研修	センター主催または共催で企画した研修 ・ペアレンティング研修の主催、ペアレントメンター相談会の共催 他	実施回数	59 回	22 回
		延 参 加 人 数	194 人	254 人
	外部から講師依頼を受けた研修（講師派遣）	実施回数	44 回	83 回
		延参加人数	830 人	1356 人
(5) 関係施設・関係機関等の連携	連絡協議会の開催状況	実施回数	0 回	4 回
	障害者総合福祉法第 89 条の協議会等への参加状況 ・地域障害者自立支援協議会（津幡町・かほく市・白山市） ・市町発達障害者担当課長会議 ・石川県発達障害者支援体制推進会議等および石川県特別支援教育体制整備推進事業連絡協議会	参加回数	8 回	9 回
	その他の協議会への参加状況 ・強度行動障害支援者養成研修企画委員会	参加回数	16 回	16 回

3. 事業の実施内容（表2）

(1) 発達障害児者及びその家族に対する相談支援・発達支援

当事者・家族や関係機関からのニーズに対し、来所・訪問・電話・テレビ会議システム・Eメールなどの方法で相談を実施した。必要に応じて心理検査等のアセスメントや支援計画の作成を実施した。関係機関のコンサルテーションを実施した。

主な関係機関…保育所、小・中・高校、特別支援学校、大学、教育委員会、児童相談所、障害福祉サービス事業所、相談支援事業所、医療機関、保健所、行政機関 など

(2) 発達障害児者に対する就労支援

当事者・家族や関係機関からの就労に関する相談に対し、来所・訪問・電話・オンライン会議システム・Eメールなどの方法で実施した。県青年期社会適応力向上事業として NPO 法人ケーネット知楽市と協働での IT サロンや安宅数楽塾と協働でのボードゲーム（能登地区および加賀地区）の開催に協力した。他、就労関係機関のコンサルテーションを実施した。

主な関係機関…医療機関、相談支援事業所、就労移行支援事業所、就労継続支援事業所、公共職業安定所、企業、司法関係機関、行政機関 など

(3) 地域住民等に対する普及啓発

世界自閉症啓発デーに関する県内でのイベントの企画・運営を、石川県自閉症協会やその他の関係者とともに実施した

(4) 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修

強度行動障害支援者養成研修の企画委員として基礎研修と実践研修の実施に協力した。

ホームページ及びブログの更新を随時実施した。

(5) 関係施設及び関係機関等の連携

発達障害者支援に関する様々な会議の企画・運営に協力、参加した。県及び市町の障害者自立支援協議会及び運営会議に参加した。

4. 家族の集い事業

(1) ペアレントメンター

- ・ペアレントメンター養成講座ベーシックコースを実施した。受講者7名、講師・インストラクター9名（インストラクターは金沢大学の教授、准教授、その他石川県内で活動している相談支援専門員等に依頼）による、充実した研修を実施することができた。

- ・また、応用研修Ⅸを『吃音の基礎知識と支援の方法』をテーマに金沢大学の教授を講師に招いて実施した。受講者18名全体の参集者49名。

- ・令和7年度活動報告会を実施し、『家族の思い』をテーマにペアレントメンターらの体験談を聴いた。参加者15名全体の参集者22名。

- ・また今年度は広報活動として県内各地の自治体・当事者会などを訪問した。

- ・石川県自閉症協会げんきの会をはじめとする親の会主催のグループ相談会を積極的に開催。17回の実施。個別相談、自治体研修などに関して、延べ62名のペアレントメンター派遣をコーディネートした。

- ・ペアレントメンターとその活動の周知については引き続き課題となっている。

(2) ペアレンティング研修

- ・子どもの発達・発育の偏りによる親の育児不安に関して、身近な地域で専門家の指導を受けられる環境整備の一環。児童発達支援センター、放課後等児童デイサービスの職員などを対象とし、子どもへの関わり方について親・養育者等を指導できる人材育成を行う。

今年度は、昨年度の基礎編を修了した受講者を対象に指導者編を実施し22名が受講した。

2日間のプログラム日程を、2か所の会場でそれぞれ行った。

- ・また、これまで6年間にわたって実施した本研修の受講者の応用研修としてフォローアップ編を事例検討を主な内容として行い、13名が参加した。

- ・令和8年度以降は厚生労働省が推奨する「ペアレント・トレーニング」の基本プラットフォームを満たしたプログラムを地域で安定的に提供するための体系的な指導者養成を進めていく必要がある。

(3) カサンドラ症候群の女性のためのグループワーク・個別相談

外部講師としてペアレントメンターを招いてインシデントプロセス法によるグループワークを2回実施した。また、パーススタッフが2回グループワークを実施。
合計4回の実施（R6年度は4回）

5. 発達障害者地域支援マネジャー事業

県内各市町の発達障害児者の相談体制作りや困難事例への支援ができるよう、要請に応じて県内市町に延べ111回出向いた。（前年度は110回）

6. その他

国の「発達障害情報分析会議」の「災害時における発達障害児者支援に関する情報発信検討作業部会」において、災害時における発達障害児者支援に関するリーフレット改訂等情報発信の検討会議（R6年度・R7年度実施）に2回参加。